

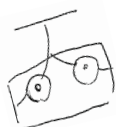


〒211-0035 川崎市中原区井田 3-10-31
公益財団法人 現代人形劇センター内

TEL : 044-777-2228 FAX: 044-777-3570
e-mail : deaf@puppet.or.jp URL: http://deaf.puppet.or.jp/

Twitter, Facebook もやっています！
Twitter DEAF_PUPPET
Facebook 「デフ・パペットシアター・ひとみ」

日々制作..



by 中西優樹

段々と夏の匂いがする季節になってきました。
みなさん、如何お過ごしでしょうか。
自分は、少し前まで新作の協賛金を集める作業を
しておりました。
多くの企業に電話をして、お世話になりましたが、
デフのことをお話すると皆さまに暖かい言葉を掛
けて頂くので、改めてデフとして活動する意義を
実感する毎日です。
ある企業様の方には、デフの公演を実際に観て、
素晴らしい舞台だと感じて頂き、協賛をして頂い
たことがありました。
とても嬉しかったです。協賛頂いた企業の皆様も
もちろん、デフの公演を作ってくれた方々にも、
デフのことを応援して頂いている方々にも、皆さ
まに感謝をしたいと思いました。
デフの公演を作ってくれた多くの方々のおかげで、
観て頂いた人が応援してくれたおかげで、企業
の方に観ていただいたおかげで、協賛を頂くこと
ができました。
微々たるものですが、自分の力もあったと思いま
す。その僅かな自分の力から、皆さんのお力のお
かげで協賛頂けることに繋がりました。



by 吉村衣世

先日、ひとみ座の劇団員のお父様から生物多様性につ
いてのお話を伺う機会がありました。膨大な数の生物が生
きるこの地球で、人間は 1 つの種にすぎないという
ことから話は始まりました。
そのあとも生態系のバランスや生物多様性の意味につ
いてのお話が続きました。正直人間にとって利益をもた
らす生物以外の事はどうでも良いんじゃないの？でもそれ
は人と人の関係性の中でも実は起こってるんじゃない
の？という哲学的な話にも広がる、生物学の枠を超えた
2 時間でした。
決して堅苦しくなくユーモア溢れるお話で、聞いていた
劇団員も創作意欲をかきたてられたようです。
目から鱗な話をうかがう中で驚いた事は、地球上の生物
は（しかも確認されているものだけでも）一日に 1 種は
絶滅しているということでした。いつかは命が誰でも平
等になくなりますが、月が欠けてまた満ちるように、い
のちをつないでいくことの大切さを知りました。
生物学的な視点で生殖がどうの、ということもおっ
しゃっていましたが、私個人としては自分の生み出すも
の全て、それは言葉でもあるし、想いでもあるし。その
ところが絶滅しないように、何があっても正しいと思う
ことは通していくことも大切です。
私自身は誰かの一部かもしれないということ。それを自
覚し、自分の想いに責任を持っていたいと思います。



by 大里千尋

旅公演レポート

先日の苫小牧市公演は、1年前に手話言語条例制定をきっかけに手話を市民に広げていきたいと熱意を持った市職員の方のお問い合わせから実現しました。

ただ最初は、手話サークルに実行委員会を作ろうと話を持ちかけても、上司に市の事業として取り組んでみようという提案しても、「ふーん、人形劇ねー。」と箸にも棒にも掛からぬ状態。

それでも、職員の方は、ずっと、やりたい！観たい！必要だ！と呼びかけてくださったところ、ある日突然直属の上司のスイッチが入りました。

手話を学び始めた上司が、「耳が痛い」という言葉を手話に訳すときに、日本語からそのまま訳しても伝えたい意味で伝わらない、手話は言語なんだ、手話通訳は必要なんだ、と実体験を通し眼から鱗が落ちたそう。

その時に「人形劇をやることで、確かに手話に興味を持つきっかけになるかも。」とずっと声をあげていた部下の言葉が、スッと自分の中に入ってきたそうです。

この後は、上司が課長のスイッチを押し、最後には市長のスイッチも入り、集客目標であった400名をはるかに上回る、600名超のお客様にお越しいただくことができました。この日は複数の小学校で運動会があり、人気バンドのコンサートもあったのに、600名を超えるお客様がデフパペのお芝居を選んできてくれたこと、それには一人ずつにスイッチが入った瞬間があったのだと思います。

最初に、熱意を持って声をあげたのはたった一人。一人から周りの人の気持ちや、社会の意識を少しずつ変えていくことはそんなに難しい問題ではないのかもしれない。

私自身もデフパペに新しいスイッチを入れてもらったように、たくさんの地域でスイッチを入れる存在であれたらと思う今日この頃です。

3ヶ月に一度のこんには

by 鈴木文

皆さんこんにちは。今日は新作の周辺について、個人的なレポートです。万が一初耳だという方のためにお伝えしますが、デフは来年2月に新作を発表します。タイトルは『河の童』（かわのわっぱ）です。つまり「かっぱ」が主人公です。簡単明瞭ですよ。

ところが、作品の実体はまだ泥の中といった所でしょうか。目下脚本と演出を担当していただくひろみさんが、育成中です。私たちは文字通り沼の周辺で、掘り出される蓮根を待っています。

では、もう少し待っている間に、周辺で盛り上がっていることを書いてみます。

「かっぱ」は日本各地にいろんな呼ばれ方、様相をもつて広がっています。諸説あるようですが、かっぱ発祥の地は九州で、そこではかっぱの宗家九千坊（くせんぼう）一家が取り仕切っているとか、有名な故事に因んだ例では、壇ノ浦の戦いで源氏に敗れた平家の武将平教経の奥方は海に沈んでかっぱに化身したとか、関東では大利根の禰々子姉御が支配しているとか、地域ごとに特徴的なかっぱの謂れがあってわくわくします。

また「かっぱ」では遠野も有名な地域です。で私は遠野といえば宮沢賢治を思い浮かべるのですが、宮沢賢治にはかっぱが登場する作品が無いことにふと疑問を感じました。それについて宮沢賢治大好きな某劇団関係者に尋ねたところ、賢治にとってかっぱは自然と同義ですすでに作品に含まれているのではというご意見。なるほど、深い〜。

もう一つ、旅先のお土産では、皆かっぱに関係するものに目が行くようになりました。結構な種類があり、そんな所からもかっぱの浸透度に驚かされます。

デフパペの「かっぱ」をお目見えするまで、皆さんも周りのかっぱを発見して楽しんでいただきたいと思います。乞う御期待！！

新作 河の童 -かわのわっぱ-

デフ・パペットシアター・ひとみは、皆さんご存知の通り、37年間ずっとろう者と聴者が協同して作品をつくっています。それはお互いが違うからこそ、新しい表現が生まれるという発想からのスタートでした。

人種、国籍、宗教、性別、障害、様々な違いを抱えて生きる現代の我々にとって『共生』とは何か？

デフパペットも常に向き合ってきたテーマで、人間とは異なる存在の河童を通して、美しく響く言葉だけの「共生」ではなく、真に「共に生きる」世界は何なのかを映し出します。

人形美術の本川から、「河の童」のイメージイラストとロゴデザインがあがってきました。

なんとも憎めない表情をしていますね。

現在、演出・脚本の立山さんは台本執筆中。いよいよ7月には完成予定です。

同時に、2018年4月以降の全国ツアーに向けて、制作を開始しました。

これから全国に企画書をお届けしたいと考えています。

我が町で観たい！と思われる方！是非劇団までご連絡ください。

☆初演情報☆

日時：2018年2月22日（木）～25日（日）

場所：ソリッドスクエア B1 ホール（川崎駅から徒歩7分）

料金：大人3000円 / 高校生以下 2000円

主催：公益財団法人現代人形劇センター

共催：川崎市



イラスト・本川東洋子